

千葉

デジタル版
ニュースはこちら

千葉総局
〒260-0014
千葉市中央区本千葉町1-1
TEL 043-223-1911
FAX 043-223-1931
chiba@asahi.com
千葉支局 〒273-0035
船橋市本中山2-1-18
TEL 047-335-2141
FAX 047-335-2110
成田 0476-32-5840
柏地区 松戸地区
銚子・旭地区 茂原地区
房総南部地区 木更津・館山

きょうの天気

6-12時 降水確率 12-18時

20	千葉	20
20	我孫子	20
20	銚子	10
20	木更津	50
40	館山	40

千葉	北東	北	木更津
我孫子	東北東	南	館山
銚子	北北東	湿度 60%	

気圧	最高	最低
千葉	35度	27度
我孫子	34度	26度
銚子	31度	25度
木更津	34度	25度
館山	32度	25度

あす

千葉	西南西	南西	木更津
我孫子	南	南西	館山
銚子	南	湿度 60%	

波	1.5m
8月26日	
(旧7月4日)	

日出	5.07
入出	18.15
月出	7.46
月入	19.36

月齢 2.9

カラー充

全日本合唱コン
ライブ配信

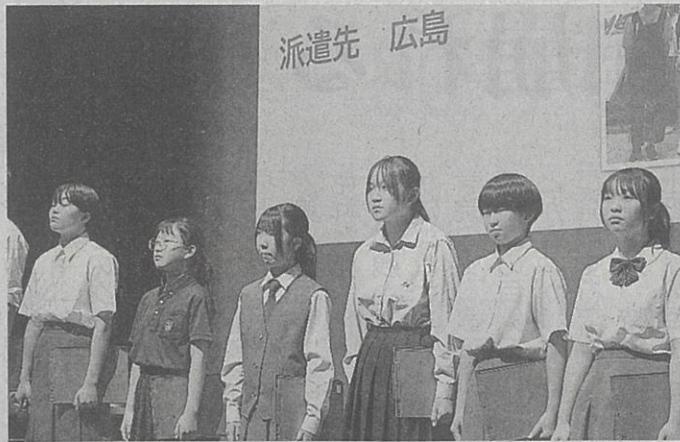
全日本合唱コンクール

広島訪問「平和」胸に宿る

戦後
80年

成田の中学生 報告

成田市と市平和啓発推進協議会は24日、「平和の集いとコンサート」を開いた。広島市を今月訪



広島での経験を発表する「中学生折り鶴平和使節団」の生徒たち＝成田市花崎町

れた「中学生折り鶴平和使節団」の生徒が活動を報告し、成田の戦争体験者が講話。平和を願う曲のコンサートもあり、市民らが聴き入った。市内すべての中学校の代表11人は、4日から3日間、広島市を訪問。「原爆の日」の6日に平和記念式典へ出席し、原爆ドームなどの被爆遺構を見学した。生徒や市民が平和を願って折った約3万7千羽の千羽鶴は同市と長崎市に贈られた。集いでの報告で、11人それぞれが被爆遺構で感じたことを発表。団長で市立西中2年の中川莉理さんは「広島で、80年続いた平和への強い思いを感じられた」と話した。

戦争体験講話は、元小学校長で同市松崎の荒井清さん(90)が、講師を務めた。荒井さんは「学校が燃えちゃった」との演題で、終戦間際に現在の成田市で起きた出来事を話した。荒井さんは1945年、八生国民学校(現・八生小)の3年生だった。2月16日、警戒警報が鳴り響いたため、学校から帰宅させられた。防空壕に避難していたところ、「轟音」とともにドスンとはね上げられるような感覚。皆抱き合って震えているだけだった。学校に米軍機が墜落し、校舎が全焼したのだ。人的被害はなかったものの、パイロットは死亡。遺骨は戦後、遺族に

よって引き取られたという。今でも前後のことは夢に見るといふ。荒井さんは「戦争を今の子どもたちに二度と経験させてはならない」と訴えた。成田市では、2009年から広島、長崎両市に折り鶴を届けており、17年間で約156万7千羽になった。13年からは中学生の代表による使節団を隔年で両市に派遣している。来年以降も続けていくという。

市文化芸術センターでは、ギャラリー展示「いま伝えたい戦争の記憶」が31日まで開かれている。市出身の芸術家のほか、市民が寄せた戦争体験記などを展示。「戦争期の成田」を紹介している。(小林誠一)



幕張総合高、最優秀に

行政×学校 安房拓心高で「夏期講習」

南房総市が受講料負担 塾講師を派遣

南房総市は高校生を対象に26日から3日間、市教育委員会主催で学習講座、いわゆる夏期講習を安房拓心高校で開く。行政と学校が連携して学力向上に取り組む試みで、市によると全国でも珍しいという。応募した20人が参加予定。2コ

海も地域の未来も 照らして

房総半島の最南端にある野島埼灯台(南房総市白浜町)が今月15日、再点灯100周年を迎えた。この節目にあわせ、これまで航海の安全のために海を照らしてきた灯台を、今度は足もとの地域を輝かせる拠点にしようという試みが動き始めている。その関連で同日、再点灯100周年を祝う記念式典が同所で開かれた。

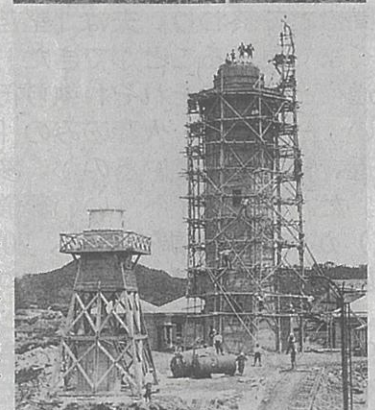
「観光のシンボルに」

「未来に向け、観光や文化のシンボルとして、この灯台が輝き続けてほしい」。記念式典であいさつに立った千葉海上保安部の桜川正人次長は、こう強調した。観光や文化を活性化させる役割を、この灯台は期待されているのだ。理由の一つは、その美しさだ。野島埼灯台は、国内外からの船舶を東京湾へと導く灯台として、観音埼灯台(神奈川県横須賀市)に次ぎ、国内で2番目に整備された古い洋式灯台だ。1870年1月に初点灯し、1923年の関東大震災で倒壊した歴史も持つ。この日のイベント

式典に参加した南房総市観光協会の清宮信英会長は「(灯台があるエリア)ポーター・根岸敷生」

初代は高さ約30メートル、八角形のレンガ造りで、初点灯は1870年1月22日だった。その白色光は、17・5海里(1海里は約1.852キロメートル)の範囲まで届いた。現在の2代目も、初代の八角形のフォルムを引き継いだ姿で、「白鳥の灯台」の愛称で親しまれている。式典に参加した南房総市観光協会の清宮信英会長は「(灯台があるエリア)ポーター・根岸敷生」

普段は夜間非公開だが、この日は募集に応じた約30人に公開された。来場者たちは、白色光が点灯直後にエメラルド色に輝く「エメラルドタイム」を見学したり、灯台の上部から野島崎の沖合を行き交う船の明かりを楽しんだりした。観光協会では今後、星空と灯台を楽しむイベントやツアーなどを企画していくという。



①国内で2件目の洋式灯台だった初代野島埼灯台
②2代目にあたる現灯台(右)の建設中の様子。左は仮設の木造灯台＝いずれも公益社団法人燈台会提供



再点灯100周年の式典に参加した関係者＝南房総市白浜町白浜

見守られて「最後」の取組



芝山・鹿島神社

芝山町芝山の鹿島神社で24日、「最後」の奉納相撲があった。氏子約20世帯がいる中郷、東の両地区は、成田空港の機能強化による滑走路新設で、新たに空る。150年とされる奉納絶える見通し。町教育委員によると、鹿島神社は、五納相撲は、五病息災を祈念